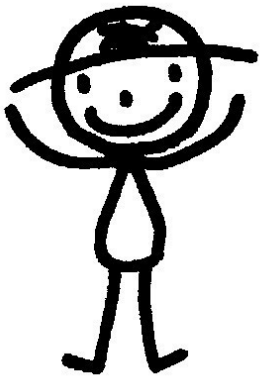
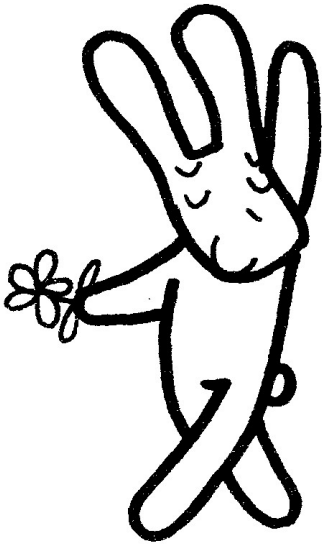
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ
ま～ゆ



蚕都くらぶまゆ会報 **No.5** 2002年5月10日発行



ま～ゆ連絡先　代表 安井啓子

〒386-0001　上田市 上田 2576-16

TEL/FAX　27-3186

メール　ma-yu@ml.melma.com

ホームページ　http://www.ued.janis.or.jp/~ma-yu/

（Yahooの検索で地域通貨ま～ゆでも開きます）

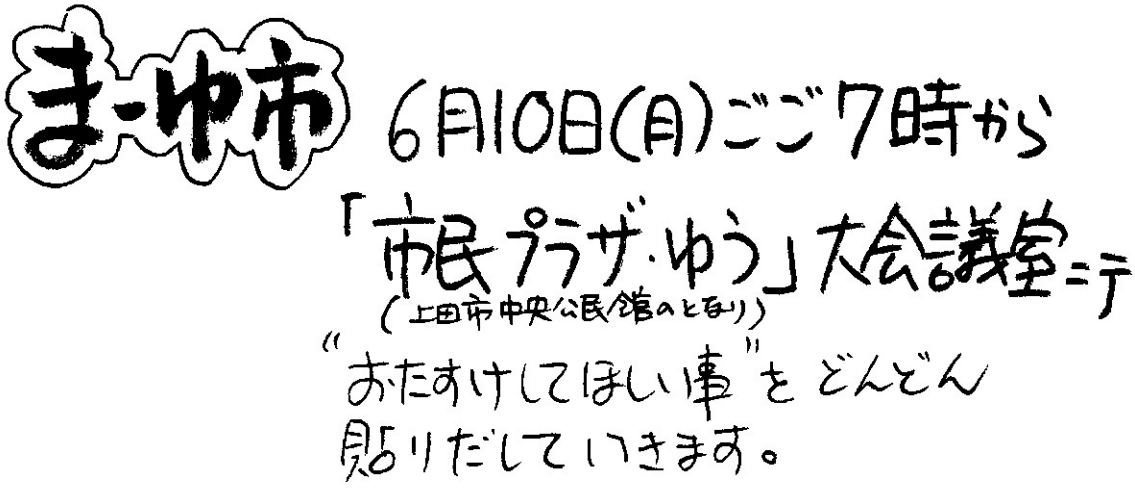
「ま～ゆ活動のお知らせ」

○ ま～ゆ市　毎月 10 日に開催します。新しい参加者がみんなと出会ったり、お助けのやり取りをしたりをします。とにかく賑やかに情報や挨拶が飛び交っています。明日の元気を生み出す集まりです。毎回の参加者は 30 から 40 名ぐらい。自慢の野菜などの持ち込みもOK！参加者のアイデアでどんどん内容をボリュウムアップしていきましょう。

６月 10 日のま～ゆ市の会場は「市民プラザ・ゆう」大会議室です。時間は午後７時からです。

○ ま～ゆ会報　隔月 10 日発行の「ま～ゆの会報」です。メインはお助け一覧表です。常に最新情報を心掛けていますので、皆さんの情報をいつでもお寄せください。

○ ま～ゆ世話人会　月一回、ま～ゆの運営を検討する場です。世話人として運営に責任を持つ方が参加します。もちろん参加は自由です。意欲のある方の参加、大歓迎です。あなたの「得意」を存分に発揮してください。



地いき通貨『おうみ』視察報告

No. 2　中島邦夫

去る3月5日、地域通貨の先進グループとして有名な滋賀県の「おうみ」を、今後のまーゆの活動の参考にしたいと思い、訪問してきました。ちょうど長浜で取り組んでいる「黒壁」の町おこしゼミへの参加もありましたので、関西地区の地域通貨の実情を視察してみようと、いくつかの地域通貨団体と連絡をとってみました。が、先方の都合などで許可をいただいたのはこれからご紹介をする「おうみ」だけとなりました。

当日10時に地域通貨おうみ委員会「ひとの駅」へ伺いました。JR草津駅から歩いて5分ほどの繁華街の一角にライブハウスのような事務所がありました。なんでも映画館所有の建物を借りているそうです。私達「まーゆ」の移動事務所(?)から比べるとうらやましいなーと思うと同時に、どうやって維持しているのか懐具合が心配になりました。（実際に維持費が月に7～8万円かかっているそうです）

それにしても人々が集まる場所「ひとの駅」とは上手い名前を付けたものです。

「おうみ」の説明は代表の金沢女史から受けました。ちょうど同じ頃に視察にこられた新潟県職員で高齢者福祉関係の二人、熊野市議会議員ご夫妻、関西学院大学大学院の女性研究者の皆さんも一緒です。金沢さんによれば最近全国各地からの来訪者が急増して、地域通貨への感心の高さを感じているそうです。説明も大変手馴れたものでした。（会費3000円をがっちり取られました）

最初に今年1月に NHK 大阪で放送された「おうみ」の紹介ビデオを拝見しました、大変よくまとまっていて、「おうみ」の誕生から今日までの様子が良く理解できました。（ビデオを一本分けて貰いましたので機会があったら見てください）

そもそも「おうみ」は1999年3月、草津コミュニティー支援センター内でのクーポンとしてスタートしました。同年9月、センターから独立して「地域通貨おうみ委員会」を結成し実質的な活動に入りました。

対象者は

(A) 一般市民(居住地域や属性は問わない

(B) 市民活動団体（草津コミュニティー支援センターをはじめとした団体）

(C) 事業所、行政…となっていますが、私の印象では一般市民の活動が余り感じられませんでした。

これはこの会の設立時の状況から「機関中心」に進められてきたことと、加入方法と獲得方法のシステムの問題かと思われます。まず、「おうみ」を手に入れるには1000円以上の寄付金(カンパ)を出して、そのお礼として「100円＝1おうみ」が発行されます。この寄付金をファンド(寄付金の活用。現在約80万円の募金を持っています。私の払った3000円はここに入るのかな?)として色々な事業支援を行います。

会としても草津市商店街連名のイベントを請け負ったりして積極的に事業活動を行っています。更に商店街の活性化対策として琵琶湖の湖底から浚渫(しゅんせつ)した土で作った「びわこつち」というペンダント型の地域通貨を商店街対策用に特化して流通させています。これは「おうみシール」事業協力店でお買い上げ1000円につき1枚のシールを貰い、10枚で「びわこつち」ひとつと交換します。このペンダントひとつあれば協力店で100円分の買い物が出来る仕組みです。

このように一見順調に進んでいるかに思える「おうみ」ですが、3年目に入りいろいろな問題・課題が次々に出てきているのだそうです。

いま、私達のま～ゆはアットホームな雰囲気で会員も100名を超えました。それぞれが理想を持って参加されていると思います。

この最初の気持ちを大切にしながらアイドリング期間から次のステップに踏み出す時期にきています。いくつかの問題・課題がある中で、行政との関わりと役割分担、商店・自営業の方々との連携と活性化などは重要な物の一つでしょう。そんな中で通貨を一つに限定せず「目的に特化」して、いくつか持つという「おうみ」のやり方は大いに参考になると思いました。

「おうみ」のスタッフの皆さん本当にお世話様でした。

「八ケ岳大福帳」は、自然増殖中！

上田「ま～ゆ」の皆さん、こんにちは。
「八ケ岳大福帳」の柘植（つげ）です。
「まーゆ」が出来てから約半年、時折いただく黒田さんからのメールに「ま～ゆ」が着実に成長発展していることを実感しています。

私たち「八ケ岳大福帳」は今年５月で３年目を迎え、会員数も 100 家族を超えるにいたりました。
手芸サークル、米作りサークル、音楽、サークル、リユースサークル、パソコンサークル、ホームページサークル、ねこの手サークル 等など、たくさんのサークルも出来ました。

「八ケ岳大福帳」の会員の中には、薪ストーブを使っている人も多く、薪の調達が、安定的に出来るようにと、「薪銀行」なるものも設立準備中のようです。

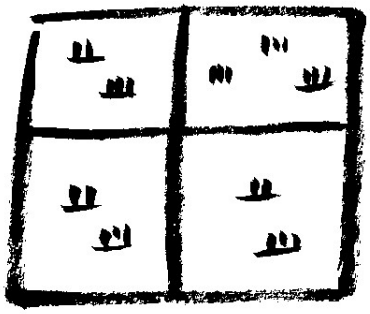
最近、変更になったこととして、今まで、「八ケ岳大福帳」の運営のお手伝いをしている人を「世話人」と呼んでいましたが、少し堅苦しいので、それぞれの役割に応じて「〇〇係」と改め、毎月１回行われていた「世話人会」も、係を担当している会員以外の人も気軽に参加し、文字通り、お茶を飲みながら、話を

し、楽しいひと時を過ごせる場になればと、「茶話会」（さわかい）と変更しました。

発足後３年を迎える現状として、ある程度、安定してきた一方で、大福帳の取引や集まりに参加している会員の顔ぶれも、決まった顔ぶれが多くなってきているので、普段あまり参加されていない会員の人に参加していただくような運営の仕方や行事、イベントなどを考えていきたいと思っているところです。

「八ケ岳大福帳」は、今なお、ゆっくリ、じわじわと自然増殖中です！
今後の「八ケ岳大福帳」もお楽しみに！

八ケ岳大福帳　平凡な普通の会員
柘植重信（つげしげのぶ）

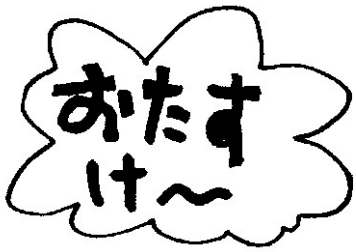


んぼ再生！

まーゆでは荒地となっている田んぼに
再びお米を蒔き緑を再生する
プロジェクトを開始！
場所は須川沿の近くの棚田。
北アルプスも望めるすばらしい場所です。

田んぼプロジェクト
のまとめ役は
NO.2 ごんべりょん
です。
ぜひいっしょに！

のび太さんの
ま～ゆな日々



№7 早川 潤

○月○日。

今日は２泊３日の出張で留守になるごんべいさん宅のゴンベイ君(オス犬５歳)の散歩だ。少々慣れが必要とのことで昨日の散歩に同行したのだが、ゴンベイ君もうすっかり忘れたらしい。ウー！と威嚇して何やら近づきにくい雰囲気。目線を合わせてしばらくすると、やっと気が付いたようで歓喜のダンスとなる。これがまたすさまじい。なにしろ普通に立っても人の背丈ほどはあるのだ。

犬の散歩なんて本当に何十年ぶりだろうか?自転車にはよく乗るのだが、そもそも散歩なんてものも とんと縁がなかったせいか、ゆっくりとふるさとの山々を見ながら歩いていると、もうすっかり忘れていた子どもの頃の生活風景がよみがえって来た…。

私が子どもの頃、味噌や砂糖などの生活物資の貸し借りは、近所どうしで当たり前にありました。一芸に秀でたおじさんが何人かいて、例えばニワトリ１羽を目の前で絞めてくれたりした。また我家では豚を飼っていたので、近所の食堂から出る残飯運びと餌くれは私の役目だ。そうして大きくなった豚君が売られていく悲しさ。生き物と食との関係をしっかり体験できたのだ。

家中で裏山に薪となる木を切りに行き、それを切ったり割ったりして乾燥させ、夕方の風呂焚き当番では、火の番をしながら子どもなりに哲学的?になったりもしたものです。
「きょうは風呂を沸かしたから入りにおいでー」などと隣のおばさんが言ってきたり、そんなことを多くの家でやっていた、そう、わたくしは典型的な「三丁目の夕日」世代なのです。
いまは炊飯も風呂もスイッチポンの世界。豚肉もニワトリも魚も切り身になってパックされ、必要な時にはいつでもすぐにでも手に入ります。

そんな「もの」と「こと」のやり取りを効率よく行うシステムを作り、各家々に「もの」を行き渡らす事や、より合理的な世の中となるため、近所づきあいは面倒なこととされて久しいが、それがなにより豊かになること、と信じて疑わなかった。

そうしていま、物があふれ便利になっても、私たちは一向に豊かさを実感できないでいる。それどころか地球上に貧困と経済格差を益々助長しているのが現実だ。

わたし達「三丁目の夕日 AND 鉄腕アトム」時代から見た、ばら色に輝く 21 世紀と 実際にそれを迎えて昨年起きた 9.11 事件のような現実とのかい離は、そうした「豊かさ神話」の方向を問い直しているのも事実ではないのか。

地域通貨はそのすべての処方箋には、もちろんなり得ない。
例えればリハビリ器具の一つに過ぎないのだ、とも思う。
けれど「豊かさ神話」にどっぷりと浸かってしまった体はそうそう元に戻るものではない、
あわてずゆっくり、そして無理をせず体と心をほぐして行くのが肝心だ。

リハビリは ちょっぴり苦しくもあるのだなんて思っていたら、もうそろそろゴンベイ君の帰る時間だ。おーいゴンベイ君そろそろ帰ろう。きょうは君のおかげで、なんだか体もこころも良い運動になったよ。またあしたも来るけど、ウーと唸るのだけは勘弁だよ!!

㊟「三丁目の夕日」
ビックコミック誌に長く連載されている、昭和30年代を描いた西岸良平氏のまんが。

ま～ゆな人&店

ま～ゆには実にさまざまな人々が参加しています。
もしかすると、ま～ゆに参加しなければ知り合う事もなかった人々。一人ひとりが多彩で貴重な経験や知識、技術をお持ちです。
お金には換えられない魅力タップリの「人間の財産」をお持ちの方を「ま～ゆな人」と命名し、ま～ゆの発展のためにドンドン紹介していきます。

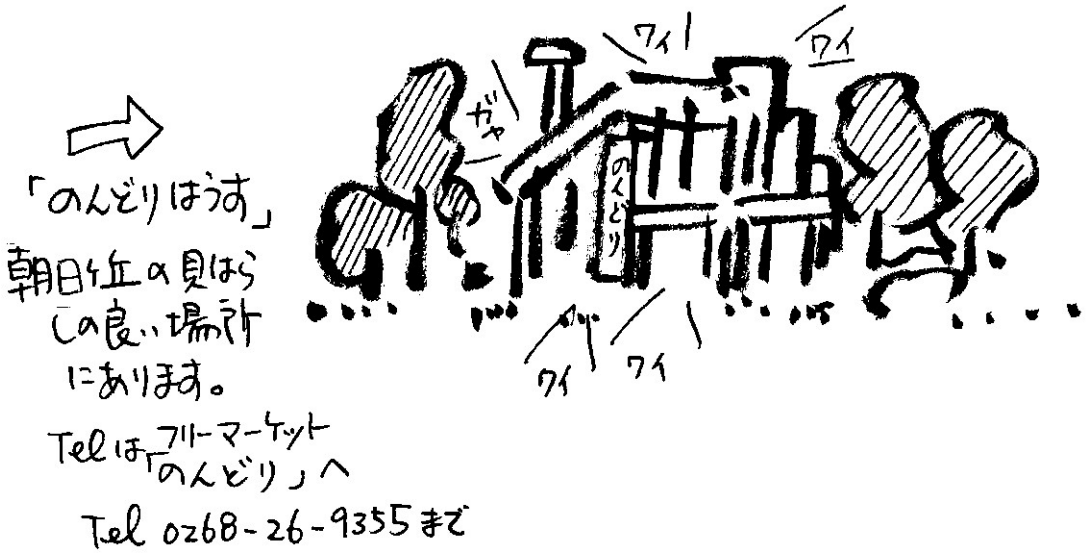
● №8 家氏しげ子さん(58)

トレードマークは「エプロン」です。近所の優しいエプロンおばさんといった風情の家氏（いえうじ）さんは独力で「のんどりはうす」という名の集会所を運営しています。この「のんどりはうす」は若者からお年寄りまで年齢を超えて自由に使える場所として、すっかり定着。さまざまな集いが行われています。家氏さんの活動は昨年11月にNPO認証を受けました。

家氏さんのたくましさの原点は「貧乏」。親分肌の父親は人の面倒に熱を上げるが自宅へは稼ぎを持ち帰らない。だから小学校の頃から、一目散に帰宅してお母さん、お兄さんと一緒に内職をした。

大人しくて声も小さかった しげ子さんは近所の一人住まいのおばさん宅によく出かけた。親類でもないそのおばさんは「砂糖を貸してください」という家氏さんに快く砂糖を渡してくれたそうです。「貧乏だったのでいつも借りに行った。あのおばさんに助けてもらった」と家氏さんは懐かしそうに話してくれました。

20年前に京都から上田に在住。いま、「地域の人とともに助け合い死んでいきたい」と、家氏さんは思っています。



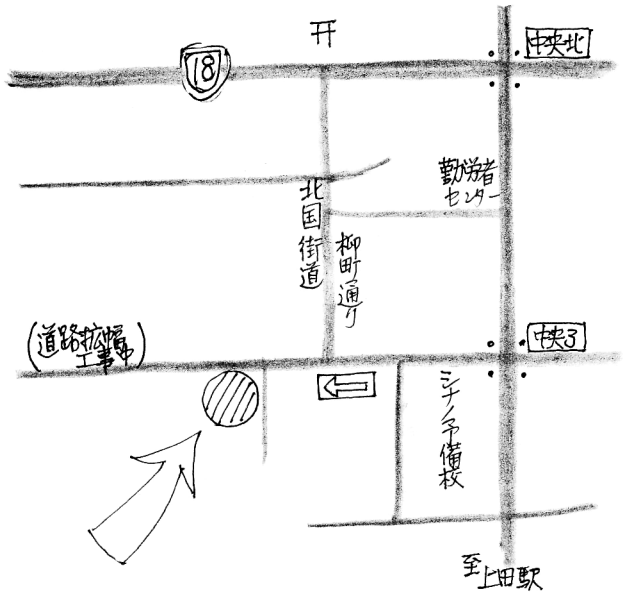
今から40数年前、上田二中の生徒会 会長選挙で、次点の2倍もの票を獲得して颯爽と登場した甲田秀彰君。同年の筆者はクラスが違うために“やる気満々でカッコイイ„彼„を憧れと羨望の目で見ていました。この印象が強烈でしたから、甲田さんを取材で訪れることができるのは役得にも似た幸せ感でいっぱいでした。幸い甲田さんは私の顔と名前ぐらいを(なぜか)ご存知だったので、すぐにあの時代の思い出から話に入りました。ところが意外な言葉が返ってきたのです。「会長なんて、いやでいやで仕方なかったんですよ」。“やる気満々„は美しい誤解だったのでしょうか。高校に上がっては応援団長を経験されたそうですから、常に「いや」でもやらされる宿命がつきまとわっていたのでしょう。

お見受けした感じとはだいぶ違うらしい甲田さん。大手セメント会社に就職され、6年後にはあっさり上田に戻ってこられました。家業の履物店を継がれた選択も あまり表面に出たがらない甲田さんにとっては自然な成り行きだったかもしれません。かつては山登りを盛んにされていたとか。今は草花を育てることを楽しみになさっているとお聞きして、私はずいぶん勝手なイメージを膨らませていたようでした。

甲田はきもの店の紹介に移りましょうか。〇〇屋さんという看板が次々に消えていく昨今、大手専門店チェーンの攻勢を受けての商店経営は並大抵のものではありません。木町という立地条件もあまり恵まれてはいないと思います。「どこか ほかと違うものを持っているに違いない」そんな気持ちでお店の中を見回してみると、やっぱりありました。きもの用の草履にバッグをセットしたものがいくつも陳列されていたのです。「いまや上田では鼻緒を立てられる(特に雪駄)職人は私ぐらいではないでしょうか」と控えめにおっしゃいます。健康志向に沿った品揃えにも気配りしておられるそうですし、足に合わない靴も甲田さんの手にかかれば 痛くない･履きやすい靴に直ってしまうとか。つま先がブカブカしたり、左右の大きさが違って悩んだり、外反母趾で苦しむことはもうありません。親指の部分等を広げるウデにも磨きをかけておられる甲田さん。こういう技術が店を続けていく原動力になっているのは確かです。

「定休日は定めていない」お客様を大事にする姿勢も大きな要素となっていることでしょう。私の友達で「甲田はきもの店に決めている」人が いく人かいます。甲田さんの人柄がプラスして、このお店のファンができているのだと思います。ご子息は2人ですが「継がせる気も継ぐ気も親子ともにない」のでファンになれるのも今のうちです。暖かな雰囲気に触れられる甲田はきもの店を応援しましょう。

都々平 記



ま～ゆな人

小宮山町子さん

ま～ゆ市金で測れぬ価値生れ　町子

「元気な人」そして「チョットおっかなそう」。いたって小心な私が抱いた小宮山町子さんの第一印象はこれでした。新年会で席が近かったことと、残った自家製のザクロ酒をま～ゆでお分けしたのが縁で何回か私の家に訪れた町子さん。大変な思い違いをしていたようでした。ここに掲げた川柳でお分かりのように、とてもやさしくて暖かくて、人を素直に評価する女性であることを知って、今ではすっかりうちとけた話ができるお友達になったのです。

ズバズバと歯に衣着せない話しっぷりに「元気な人」らしさが表れていて、ご本人もそれには少しばかり気にされていたようですが、宮原まち子さんに「こういう人はハラにないから…」と言ってもらって溜飲を下げておられました。

アクアプラザに熱心に通う町子さん。「元気なうちにま～ゆをいっぱい貯めて、老後は遊び相手になってもらいたい」のがま～ゆ入会の動機とか。川柳で頭脳も鍛えているからボケ老人にはなりません。若い人たち、その節はよろしくお願いしますよ。

ーてさせて、載き、嬉しーま～ゆ達　町子

ⓒ言葉拾って
ⓜ見事に一句
ⓨ優しい目で詠む
ⓜ町子さん

都々平

ま～ゆ　お助けメモ

№28 堀 美佐子

ケーキを作る！

昨年 11 月 3 日のま～ゆ発足式に参加してから、毎月のま～ゆ市には都合がつかず参加できませんでした。ところが、突然丸山恵子さん(№71 トットちゃん)から「ケーキの作り方を教えて欲しい」と電話があり大変驚きました。お会いした事も無い方で、顔もわからないまま待ち合わせて丸山さん宅へ伺ってみると明るくてとてもステキな方でした。

仕事から帰ってこられた娘さんも一緒に楽しくケーキを作ることが出来ました。

感激のアメアラレ

いつもは自己流で適当に作っていますが、今回は他人に教えるという事でとても緊張してしまいました。おいしく出来たか不安でしたが、「ありがとう」「ありがとう」と言っていただき、少しは人の役に立てたかな?!と自己満足しております。

これからも要望があればお手伝いさせていただきたいと思います。

宮原まち子在宅

短歌

西澤公子

味噌づくり
優秀賞を受けし
「ま～ゆの友」に
幾日通いて
仕込み習ひぬ

串座になりて
枇杷もみほぐし
味噌玉を
作りつつ和む
「ま～ゆの仲間」

三月・四月の「ま～ゆ度」ナンバーワンはダントツ61宮原まち子さんでしょう。3月には5人が参加した「味噌作り」で新しい発見をし、4月は延べ20人がりんごの受粉作業や梨の花摘みの応援をしました。お手伝いすることを いみじくも小宮山町子さんがごっこと表現されたように、お互いが楽しみながら作業する場を持った意義は大変に大きいものがあったと思います。

これからも米作りプロジェクトをはじめ いくつかの企画が生まれることと思いますが、できる事にはどんどん参加して、市民レベルから「元気な上田」を作り上げて行こうではありませんか。

No.98の野口です。
去年の秋、主人と猫のミーコと3人(?)で、神戸から上田にやってきました。
上田のまちは、住めば住むほどすばらしいまちだと思います。
自然が豊かで、歴史が豊かで、食べ物が豊かで。
このまちに住めることを、毎日感謝しています。
「ま～ゆ」の会も、このまちならではの会だと思います。
今は家の中がちょっとバタバタしていて、積極的に会の行事に参加できないのですが、これからもどうぞよろしくお願い致します。

援農支援の御礼

今年は異常気象のもとで、桜の開花と同様に果樹の生育も異常に早まり、りんごの受粉作業の労働力確保を心配しておりましたが、“ま～ゆ”の皆様にご支援をいただき無事受粉作業を終了することができました。また、雨の日は作業場兼物置の片づけまでしていただき大助かりでした。

ほんとうにありがとうございました。

今、農村では老齢化が進み、又後継者不足の中で労働力不足は深刻です。このことがクリアーできれば、この地域の農業も少し持ちこたえることができるのではないかと思います。

重要な労働力として、これからもアグリサポートをよろしくお願いいたします。

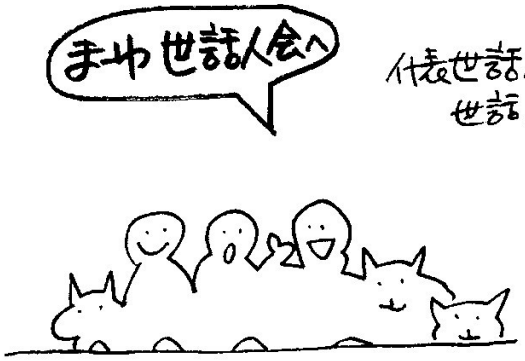
秋には皆様と一緒においしい果物が食べられるよう農作業に勤しみ、うまい果物作りにがんばりたいと思います。

まずはお礼まで
宮原まち子

ま～ゆ市のおしらせ

● 6月10日(月)
ごご7時から

● 上田市中央公民館のとなり
『市民プラザ・ゆう』大会議室



代表世話人● 安井啓子
世話人● 中島邦夫　家氏しげ子
黒田弘志　古田睦美
菅沢幸治　前田光俊
田中敏夫　藤田宏美
早川潤　平沢洋介
木下勝敏

編集を終って

前の４号が 18 ページものボリュームになって、「こりゃ一次が大変だ」が偽らない実感でした。第５号では 編集者が２人という少数精鋭(?)でしたから、「無理をしないで…」取り組みましたが、緒果はごらんのとおり。

ま～ゆが始まって早半年になり、会員も遂に 100 人を超えました。てんこもりの会報は日増しに活発な交換と交歓が行われた結果だと思います。私自身まだ理解し得ない地域通貨の理念ですが、実践を通して少しずつ分かってきたように思われます。モノ・コトを交換することをきっかけとして、ずいぶん多くの人たちと話し合う機会が生まれました。「ま～ゆに入らなかったら永遠に知り合えなかったんですよね」。この言葉を何人から聞いたことでしょう。大げさに言わせてもらえれば人生観すら変えてしまうほどに ま～ゆは魔力的なのです。

〝味噌作り〟をきっかけに いくつかのプロジェクトが立ち上がり、それまで知り得なかった世界を体験することができるのもこの会の魅力でしょう。

会報の編集も数々の魅力に満ちています。ズクを出して一緒にやってくれる会員がもう幾人かほしい。これは本音です。また、ここに載せる原稿も「自発的に出していただけたら」もっともっとすばらしい内容になるでしょう。“お助け〟の体験談を盛りだくさんにした第６号になることを期待しています。

黒田編集長に代わって都々平